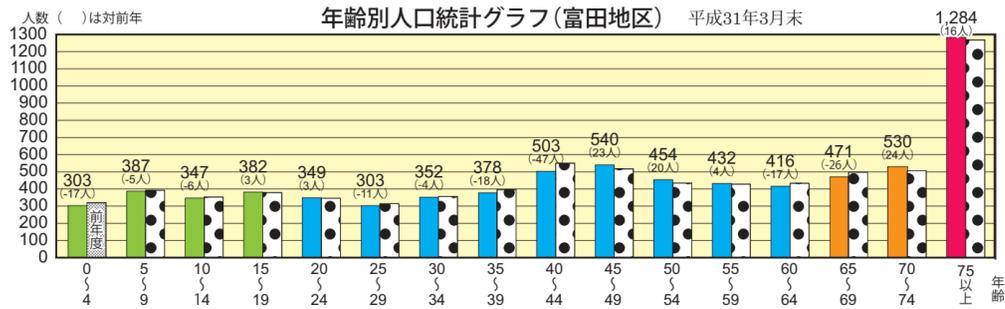


はなはな 桃花だまり

令和1年5月
第40号
富田地区
社協
(有)二華園印刷



生野銀山



富田地区人口統計(小学校区)

(平成31年3月末現在)

項目	世帯又は人数	対前年
世帯数	3,043世帯	-6世帯
男性	3,529人	-16人
女性	3,902人	-42人
総人口数	7,431人	-58人



いっしょに

富田地区社会福祉協議会 会長 西尾精一

頭の下がる思いでした。水とお弁当はお持ちでしょう。かーなどと来ていただいたボランティアの方々には、声かけを注ぎたいです。一日にバスが何回も送られてきました。そして帰ってきたボランティアの方々、半日以上も来てくださっています。ボランティアの方々、お見知り知りのように、かき氷、スイカなどを準備してボランティアの方々には、また山形から本場の芋煮などもありました。このように大きなボランティアの力も借りて、一日も早い復興を願うばかりです。

「晴の国岡山」に住む我々にとっても真備町の災害を教訓として、これから危機管理意識を強く持つていかなければならないと痛切に感じました。

田尻 幸子

チコちゃんに叱られないように

め、子どもたちの見守りなど様々な点でお世話になり、誠にありがとうございます。さて、私事ではありますが、今年度が教員生活最後の年になります。最後の学校が富田小学校です。誇りに思います。それは、元気で素直な子どもたちをはじめ、地域の皆様から温かい心と接することができると感じています。

最近、ある研修会で「ドロン！、ロー・ノルトさんの「子は親の鏡」という詩に接する機会がありました。その中に「和気あいあいとした



人権学習 研修視察

二月十日(日)

「人権学習研修会」に今年初めて参加しました。目的は、平成二十九年に日本遺産に認定された「史跡・生野銀山」です。

播但連絡道路に入った頃から雪が降りはじめ、少しずつ変わる車窓を眺め、着く頃には一面雪景色

でした。二班に別れガイドさんの案内で「鉱山資料館」で坑内模型などを見学し、坑道に入っていきます。坑内は、人が這いながら掘り進んでいった江戸時代の坑道で「掘り」の生々しいノミの跡や鉱脈などを見て回りました。また、近代坑道として鉱員たちが命を託

家庭で育てば子どもは、この世の中はいいところだけと思えるようには育ちません。守つてあげれば、子どもは頑張り屋になる「守つてあげれば」一節がありました。富田地区では、社会福祉協議会を中心に様々な組織があり、幅広い年代の方々が「子どもたちのために」地域のために活動されています。まさに「和気あいあい」として地域で、子どもを見守り、頑張り屋で育つ子どもを地域全体で育てられています。

子どもたちを取り巻く環境は、グローバル化や情報化の進展など、加速度的に変化しています。「ポーン」と生きていくなか、地域の方々とともに最後の一年を過ごしていきたいと思えます。

終わりになりましたが、富田地区社会福祉協議会が、富田地区の発展と、皆様の活躍をお祈りいたしますとともに、富田小学校に対し、これまでと変わらない温かいご支援をいただきますようお願い申し上げます。

富田小学校 校長 七田 吉隆



真備町での大雨による水害に接して

平成三十年七月六日の未明から七日にかけての豪雨により、倉敷市真備地区の小田川が決壊し、浸水死者五十二人と、一瞬の間に「国岡山」に想いを馳せ、真備町におこりました。

七月九日と十日には、真備町にある中国職業能力開発大学の体育館を借りて、ボランティアセンターが立ち上がり、ボランティアの募集が始まりました。

その日、七月十一日に玉島長尾に、ボランティアも多かった。二千人を超える方が、日本各地から来られます。

夏の暑いころには、体育館の外にまで行列ができる有様でした。

各地でガイドさんの話を聞いたのも個人で行くと見逃してしまうのも勉強になった研修旅行でした。

有和 恵子



編集後記

今回は新聞作成におきまして多くの方々に忙しい中、記事を提供いただき、ほんとうに有難うございました。

今年度の新聞は平成最後のものとなり大変感慨深いものとなりました。

さて、恒例の1面、富田地区年齢別人口統計の総括ですが、今年度、総人口は前年比較で58人減少、世帯数は初めて6世帯の減でした。

- 富田地区平均1世帯当りの人数(家族数)
 - 今年 2.44人でした。(前年比較0.02人減)
 - グラフを作成し始めた平成15年3月の数値2.88人(7,322/2,542)と比較すると0.44人減です。
- 以下近隣等参考値
 - 長尾、穂井田、倉敷市の平均1世帯当りの人数(家族数)
 - ・長尾 2.38人(12,297/5,172) [前年2.40人(12,193/5,082)]
 - ・穂井田 2.07人(1,538/742) [前年2.13人(1,591/747)]
 - ・倉敷市 2.29人(481,844/210,828) [前年2.31人(482,790/208,905)]

総人口については3年続けて減少、世帯数も初めて減少に転じました。

最後に本年も地区の意見を反映してよりよい紙面作りを取組んで参りますのでどうぞご意見をお寄せください。

○編集委員 今井 賢治、江南 秀隆、石井 麗子、平山 光子

○カメラマン 佐藤 実、石原 学、難波 仙嗣

※記事に関しましてご意見、ご感想がありましたら玉島北公民館までお寄せください。



30年度の活動報告

五月十二日(土) 総会

第三十七回富田地区社会福祉協議会の総会が、五月十二日午後七時から北公民館で、多くの役員さんの参加を頂き開催されました。議題は、前年度の事業報告・会計報告、本年度の事業の取り組みと予算が上程されました。



前年度の事業では、「夏祭り富田」(体育祭)「ラブウォーク富田」などに多くの参加を頂き、盛大に開催されました事に役員一同感謝しています。今回から「防災訓練」「どんど焼き」が新たに加わり、一層充実した地域活動になるようにしていきたいです。みんなが明るく笑顔のたえない、元気な富田という時コミニケーションのとれる富田地区になるよう、支部長さんをはじめ、各種団体の役員さんと共に、手を携えて頑張っていきたいと思っております。ご意見、ご要望は各地区の支部長さんまでお寄せ下さい。

江南 秀隆

十一月十八日(日) 防災訓練

地域の防災訓練を十一月十八日(日)に実施致しました。今回の取り組みは、昨年度より計画を基に実施したものであり、今回の西日木豪雨を身近に体験したこと、より充実した訓練内容であったような気がします。当日は、晴天の中百五十名の参加者があり、初めての取り組みではありますが、意見交換などから中身の有る取り組みができたのではないかと感じています。内容は、倉敷市消防団玉島方面隊女性部の皆さんにより、真備豪雨災害の実体験に基づく啓発劇と、消防職員より、地区に関するある災害についてのお話でした。避難訓練では、神前神社まで徒歩にて行いました。実際に行動することにより、色んな危険性に気づく良いチャンスであったように感じました。昼食は豚汁の炊き出しと、非常食の試食を頂きながら、今回の災害について意見交換を行いました。頂きましたご意見は、今内容を精査している段階にあり、今後の活動に反映してまいりますと考えています。防災啓発劇では、出演者の中に被災された方がおられ、あまりにも生々しい内容であり多くの参加者に感動を与えました。改めて災害を身近な問題として考える良い機会になったのではないのでしょうか。今後は更に内容のある取り組みにして、地域の防災力を少しでも高める事が出来ればと思います。

西尾 精一



十二月八日(土) 高齢者のつどい

「よーこそ真備の皆さん」「よーこそ富田の皆さん」のかけ声から第十六回高齢者のつどいが始まり、今回は、真備の災害被災者の方々にも一緒に楽しい時間を過ごしてほしいとの思いから、バス二台で送迎しご招待することとしました。

当日の十二月八日(土)は、真備、富田の高齢者の方々、会場の富田小学校体育館はあふれんばかりの人・人・人で、お芝居や歌、おどりを楽しみ、昼食やおやつタイムも一緒に楽しみました。又、愛育らしく会場後部では、健康チェック、健康相談、介護器具の展示と説明もしました。

十月七日(日) 体育祭

十月七日(日)富田地区体育祭が行われました。七月の豪雨災害により、近隣の真備町及びその他の地域で、多くの犠牲者を出し、町は甚大な被害を受けてしまいました。それにより、八月の「夏祭り富田」は中止となりました。しかし、「がんばろう真備」



がんばろう真備」により、八月の「夏祭り富田」は中止となりました。しかし、「がんばろう真備」

地区名	男子	女子	合計	順位	
北川	13	7	6	684	1
山ノ下	12	9	6	678	2
レッド	12	5	7	676	3
ブラック	12	5	8	744	4
浜東	12	5	8	744	5
道口	13	1	1	646	6
道口西	13	1	1	811	7
上郷	12	8	1	451	8
池畵	1	6	6	800	9
富	10	1	5	901	10
安井	12	6	1	604	11
谷底	1	1	4	700	12
友田	13	1	1	460	13
阿波	16	1	4	851	14
西川	12	7	1	484	15
陽海山	14	3	3	644	16
畑の前	12	7	1	484	17
両川尻	14	3	3	644	18

二月二十七日(日) どんど焼き

平成三十一年二月二十七日に富田小学校の運動場で、生徒・保護者・先生・役員さん約百四十名ほど参加され、盛大に行われました。初めて行うにあたり、玉島南小学校で行っているどんど焼きを見学し、それに負けない立派な櫓を組みました。「どんど焼き」とは、正月の松飾り、注連縄しめなわ・書き初めなどを



家々から持ち寄り、一箇所に積み上げて燃やして、日本全国に伝わるお正月の行事です。開会の後、一年中の身体健康無病息災・家内安全・五穀豊穡などを祈願して、代表に選ばれた子どもふたりが火をつける。瞬間に燃え上がり、この火にあたりと若返るとか、竹の爆ぜる音は災いを退け、燃やした書き初めの紙が強く舞い上がるようになる、などともいわれています。その後、役員さんが用意したぜんざいに焼いたお餅を入れ、みんなで美味しく頂き、お土産にみかんをくんだり楽しい時間を過ごしました。

協力して下さった小学校の先生、地域の皆様、役員さんありがとうございます。江南 秀隆

三月三日(日) ラブウォーク富田に参加して

小雨の朝でしたが、予定通り九時出発。三台のバスは一路最初の目的地「関谷学校」(日本遺産)へ。一号車のバスでは江南さんが、行程や関谷学校の歴史や建造物について詳しく説明してくださり、事前学習が楽しくできました。

十時二十分到着。雨も上がり、九名のボランティアガイドの案内のもと、関谷学校の見学となりました。関谷学校は、六七〇年、池田光政によって創建された、世界最古の庶民の学校とのこと。屋根は備前焼瓦でその本音、土を上げていないのは、部屋へほこりが落ちてこないようにとの工夫。それに床下は、全面、セメントかと思わせる固い三和土(たき)仕上げ、下からの湿気を防ぐためだそうです。柱は、二〇cmの檜から四〇cm角柱を取っている。背割りをしなくても狂いなしとのこと。当時の技術の粋を集めたものと納得です。講堂では、四〇名くらいの団体が論語の研修を受けておられました。約九十分間の見学を終えて昼食。隣接の青少年教育センターに移動し、ランチバイキングとなりました。教育センターといえども、ランチはホテル並み。食後のコーヒーもあって、皆さん大満足の様子。

次の訪問地は「五味の市」の予定でしたが、時期的に品数が少ないというところもあり、省略して「日本一」の店へ。日本一の名前の通り、先ずは、人の多さにびっくり。店の中に入るのも大行列。中に入ると二度びっくり。駄菓子子の種類は、ゆうに数千種類。スーパードッグを皆さん持っているのですが、あつとつと列も大変なもので、レジの列は二〇分かかりました。その列の通りにも商品の山です。山は高くなるばかり。とにかく楽しく三時、帰路につきました。バスは快適で四時すぎには無事、富田小に着きました。お世話くださった役員の皆様にご挨拶です。磯崎 宗司



磯崎 宗司



磯崎 宗司

終了時は笑顔で、「楽しかった」「また呼んでね」と、なごりおしそつのお別れとなりました。最後に、真備へのポスター張りや声かけ、バスでの送迎をして下さった高齢者支援センターの職員さん、倉敷市社協の職員さん、そして会場準備をお手伝い下さった黒川先生や富田地区社協の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございます。富田愛育委員会



磯崎 宗司